

教 員 業 績

フリガナ	サイトウ ヒロミ				
氏 名	彩藤 ひろみ (齋藤裕美)				
学 歴					
年 月	事 項				
昭和 56(1981)年 3月	早稲田大学理工学部建築学科卒業				
昭和 56(1981)年 4月	東京大学大学院工学系研究科都市工学専門修士課程入学				
昭和 58(1983)年 3月	東京大学大学院工学系研究科都市工学専門修士課程修了				
昭和 58(1983)年 4月	東京大学大学院工学系研究科都市工学専門博士課程入学				
昭和 62(1987)年 5月	東京大学大学院工学系研究科都市工学専門博士課程修了				
平成 2(1990)年 3月	東京大学工学博士取得				
職 歴					
年 月	事 項				
昭和 62(1987)年 5月	東京大学先端科学技術研究センター 都市環境システム分野助手 (平成 3(1991)年 3月まで)				
平成 3(1991)年 4月	多摩大学経営情報学部助手 (平成 3(1991)年 8月まで)				
平成 7(1995)年 9月	多摩大学経営情報学部 教授 (現在に至る)				
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等					
現在所属している学会	建築学会、日本都市計画学会、多摩ニュータウン学会				
財団	一般財団 クマヒラセキュリティ財団理事長				
賞 罰					
年 月	特になし				

研究分野		研究内容のキーワード		
情報学		複雑系、アニメーション、コンピュータグラフィックス、シミュレーション、AR、プログラミング		
教育上の能力に関する事項				
事項		年月日		概要
経営基礎Ⅱ「多摩大式経済経営シュミレータ」の開発とシステムサポート		1999年9月日		仮想会社を作成し、学生たちが経営者会議、販売、決算、株主総会を疑似体験するためのシュミレータを新規開発した。基本設計は2005（平成17）年度新規移築された新システムにも受け継がれた。（参考：新システムの開発者は出原至道教授）
「問題解決学総論 2012-2014」報告書作成		2015年2月14日		3年間に渡る問題解決学総論が終了したので、コーディネータ連名で報告書を作成した。その最終編集を担当した。報告書はpdfおよび印刷物で配布。
職務上の実績に関する事項				
事項		年月日		概要
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の 年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
シミュレーションモデルを利用した群集流動性の研究混雑時の不快感分布について	単著	1983年月	日本建築学会関東支部研究報告集	壁に囲まれた空間、例えば駅構内等を想定し、人間が近道行動をとるような歩行シミュレーションモデルを作成した。そして、近道行動が混雑時等で妨げられた場合に、不快感がつのるものと仮定し、モデルを利用して仮想空間上での混雑時の不快感分布を分析した。

インテリジェント・タイプの避難行動モデルの研究基本形による検討	単著	1985年10月	日本建築学会大会学術講演梗概集	既存の避難行動モデルは、移動方向決定しているものが多かった。本研究では、行動モデルに確率的経路選択を考え、モデル内の人間が都市空間を避難行動する際に、移動方向を選択できるように考えた。さらに、基本的な道路パターンを設定してモデルを動かした。
避難歩行実験における経路選択傾向の分析	共著	1985年3月	日本建築学会大会学術講演梗概集	忠末裕美、新谷景一、小出治 2km程度先の避難地まで地図を見ないでどのように到達しようとするか、東京都練馬区光ヶ丘公園にて歩行実験した。被験者の選択した道路を分析し、道路の方向と目的方向との角度の重要性を検証した。
避難を想定した実験歩行における経路選択行動について	単著	1986年月	第21回日本都市計画学会学術研究論文集	地図を見ないで方向のみを与えて避難してもらう歩行実験を何度かくり返し、被験者の経路選択行動を分析した。その結果、道路幅員が大きい、見通しが良い、目的方向と合致した道を選ぶ傾向が大きいことがわかった。この経路選択行動に、ロジットモデルをあてはめ、経路選択傾向を確立四季であらわした。又、角度のまちがえやすさの程度もあわせて分析した。
避難からみた地区防災計画の研究	共著	1987年月	第22回日本都市計画学会学術研究論文集	新谷景一、忠末裕美、小出治 上記の研究を受け、人が都市空間を避難する場合の行動パターンを分類し、それぞれ行動シミュレーションモデルを作成した。これにより幅員の広い道路を度の位置に設置するのが、避難に有効かどうか分析することができた。
地区レベルでの経路選択に関する研究	共著	1987年月	第22回日本都市計画学会学術研究論文集	忠末裕美、新谷景一、小出治 地区防災を考えるには、地区ごとに不燃建築物で区画化すると有効であるという考え方がある。本研究では東京都墨田区を例に、区画化の可能性をトレンド分析した。又、同じ地区を対象に防災意識と避難に対する意識をアンケート調査から分析した。その結果、地区レベルという、これまでの研究より狭い範囲を対象ににして防災計画をすすめることの意義が確認できた。

“An Experimental Study of Route Choice Behaviour in Emergencies	共著	1989 年月	Journal of the Faculty of Engineering, the University of Tokyo, Series B; Vol.40.No.1	Hiromi TADASUE & Osamu KOIDE 「第 21～22 回日本都市計画学会学術研究論文集」の論文を英文論文にまとめた。それらの論文は、その手法が都市防災分野で新しいのであったため、以後他の研究者が多数引用参考にした。
集合住宅地における犯罪不安感に影響を及ぼす要因の研究	単著		1991 年度〔日本都市計画学会〕都市計画論文集(26-A), p223-228, 1991-11	被引用文献 8 件
住宅地における犯罪発生に影響を及ぼす要因の研究	単著	1992 年 8 月	学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠 1992, 719-720, 1992-08-01	
駅周辺変化に対応する駅利用者予測に関する研究(その 4): 事務所ビルの利用人員とその時刻変動	共著	1992 年 8 月	学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠 1992, 223-224, 1992-08-01	
Rube Goldberg マンガ研究--発想訓練カードゲームの試作～A study of Rube Goldberg's cartoons: prototypes of card games for idea training	単著	2007 年 3 月	日本マンガ学会第 6 回大会特集号「マンガ研究 10」 pp. 29-37, 2007-03 日本マンガ学会	
(その他)				

研究教育用三次元仮想空間の構築に向けて	単著	2010年5月	多摩大学研究紀要（研究ノート）	
体感型3D観光補助システムの研究	単著	2013年3月	多摩大学研究紀要 No. 17 2013（研究ノート）	